

「広場をつくらう」



●日程: **12月3日(土)**

●時間: 10:30~17:00 (受付10:00~)

●場所: 東区民文化センター ギャラリー
〒732-0055 広島市東区東蟹屋町10-31
TEL 082-264-5551

参加費無料



※駐車場は台数に限りがあります。公共機関でお越しください。

日程

10:30~12:00	12:00~13:00	13:00~14:30	14:30~15:00	15:00~16:30	16:30~17:00
【講演】 「みやざき◎まあるい劇場」の 取り組みについての 映像を交えての講演	休憩	【ワークショップ】 演劇の手法を使って、 参加者同士が交流。	休憩	【ワークショップ2・発表】 作品づくり体験と ミニ発表会	【質疑応答】

申込み締め切り
2016年11月25日(金)

※下記の申し込み用紙でFAX、もしくはHPIにてお申し込みください。E-mailでも受付しております。お気軽にお問い合わせください。

講演&ワークショップ申込み用紙

氏名:	年齢:	歳	学年:	年
所属:	演劇経験 (有・無)			
手話通訳・要約筆記の必要 (有・無)	TEL:	※講演&ワークショップ 当日に連絡のつく番号		

E-mail:

※パソコンからのメールを受信できるもの

質問記入欄

対象

舞台芸術（演劇）に興味がある・演じてみたいと思われる、障がいのある方・子どもたち、障がいのある方を支援している方、一緒に活動してみたいと思われる一般の方・子どもたち、演劇経験者など。

内容

障がいの有無ではなく、人間としての魅力を引き出す舞台芸術「みやざき◎まあるい劇場」の取り組みに（プロジェクト誕生の経緯や現在の取り組み、劇団の運営を行う上でのポイントなど）ついて、プロジェクトの企画や作品の演出を担った劇団こぶく劇場の永山智行氏による映像を交えた講演を行います。ワークショップでは、参加者が演劇の手法で交流し、作品作りの体験を行います。

講師プロフィール 永山智行 (ながやまともゆき)

1967年生まれ。劇作家、演出家、劇団こぶく劇場代表。
2001年『so badyear』でAAF 戯曲賞受賞。同作をはじめ、戯曲は劇団外での上演も多く、2005年に東京国際芸術祭参加作品として書き下ろした『昏睡』は、2009年には、青年団の中心的俳優、山内健司・兵藤公美の二人芝居として、神里雄大（岡崎藝術座）演出により上演された。
また地点の演出家・三浦基との共同作業として『お伽草紙／戯曲』（劇団うりんこ・2010）、『Kappa／或小説』（地点・2011）の戯曲も担当した。
2006年10月から約10年間、公益財団法人宮崎県立芸術劇場の演劇ディレクターを務め、九州の俳優を集めてプロデュース公演「演劇・時空の旅シリーズ」を企画・演出するなど、地域における演劇の質の向上と、広がりを願い活動している。

みやざき◎まあるい劇場について

劇団こぶく劇場が、2001年から交流を続けてきた宮崎市内の福祉作業所アートステーションどんこやと共同ではじめた、障がい者も参加する舞台芸術プロジェクト。2007年2月には、障がいの有無にかかわらず、県内の様々な市民が創造に参加する演劇作品の公演『隣の町』（作・演出／永山智行）を、宮崎県内で上演。クオリティの高さが認められ、2008年2月には東京で招聘公演を行った。その後も、活動を続け、これまでに4作品が全国各地で上演されており、反響は多岐にわたり、障がいの有無ではなく、人間の魅力を引き出す場としての舞台芸術は、様々な分野に社会的影響を示している。



◀ 劇団こぶく劇場さんのHP

このワークショップが目指すもの

今回のセミナー&ワークショップは、障がいのある方々と共に継続的に活動を行っていく土台（グループ）を作ることを目指し舞台表現活動を継続して行っていくためのきっかけにしたいと考えています。そして、公演活動ができる団体へと成長していけるよう、関係の先生方に継続的にご協力いただき、広島県の障がいのある方々と共に創る舞台表現のスタイルを整えていきたいと思ひます。



右記、HP（広島県アートサポートセンターの申込みフォーム）・E-mail・FAXいずれかでお申込みください。

【主催・問い合わせ先】

広島県アートサポートセンターひゆるる（NPO法人ひゆるるぽん）
〒731-0102 広島市安佐南区川内6丁目28-15 TEL:070-5671-8668

モスクワにマルレーイ劇場という劇団がある。

私たちの新しいプロジェクト名「みやざき◎まあるい劇場」は、
まあつまり、駄洒落なのだけれど、
もうひとつの思いもある。

ミハエル・エンデの名作『モモ』の中で、
「時間どろぼう」たちと戦う主人公モモは、
円形劇場に住んでいる。

時間を節約すればするだけ
「時間がない」「忙しい」とつぶやいてしまう現代人たちは、
それゆえに「ゆっくり」としか生きられない者を疎外する社会をつくってしまった。

かつてモモがそうしたように、
もう一度「時間どろぼう」たちから、
ゆっくりとした時間を取り戻すため、私たちはまず

「広場をつくらう」と思う。

そしてそれはやはり、
まあるい劇場でなければならない。

誰もが、その人生を抱え舞台に立てる、
そんな広場、

それが

「みやざき◎まあるい劇場」

である。

「隣の町」(2007)公演チラシより

協力：舞台芸術制作室 無色透明
<http://musyoku-toumei.jimdo.com>

HP ▶ <http://hululu.jp>

E-mail ▶ hululu@hullpong.jp

FAX ▶ 082-831-6889

